

札幌市市民活動サポートセンター  
第6期第4回事業運営協議会

議 事 録

日 時：平成26年1月28日（火）午後7時開会  
場 所：札幌エルプラザ公共4施設 2階 会議室3・4

## 1 議事内容（ダイジェスト）

今日の議題は、三つほど出されております。一つ目は、平成25年度事業実施状況についてです。二つ目は、次期指定管理計画についてです。三つ目は、平成26年度入居分事務ブース使用団体選考委員についてです。一つ目から、順次、議題を進めてまいりたいと思います。

### 【平成25年度事業実施状況について】

#### ○事務局（森口係長）

平成25年度の事業実施状況について、全ての事業をこの時間でお話しするわけにもまいりませんので、特に重点的に実施したものや新たな取り組みを抽出してご説明させていただきます。

まず最初に「学生まちづくりコミュニケーションツール検討委員会」についてです。

これは、ホームページに関する検討会議である「さっぽろまちづくり総合情報ポータルサイト運営委員会」の中ワーキンググループとして活動しているものでございます。北海道情報大学の協力をいただきながら、前期は分延べ36人で学生たちが活動しました。

内容としては、主にKIDSページのリニューアルを行っております。また、子どもの活動事例として、昨年度に引き続き実施している、子ども記者事業の運営にも携わっております。その時の様子は活動事例としてキッズページに掲載しております。

会議ではNPOに関するワークショップ、子ども記者事業の準備とまとめ、ホームページ内容の検討を行っております学生たちと一緒にワークをしながら、NPOについて、どのようにしたらわかりやすく伝えられて理解が深まるかの検討を深めてまいりました。子ども記者事業では市民活動プラザ星園に訪問し、2班に分かれて、北海道ブックシェアリングと、NPO法人ゆうらん取材をしてきたところです。このときも、青年たちは、子どもたちのグループリーダーとして、または全体の記録係として活動を進めておりました。

キッズページの中身としては、NPOやまちづくりについて知ることができるコンテンツ、子ども記者事業の記録コンテンツとして動画情報などがあります。さらに「取材体験」という教材コンテンツがあります。これは地域の小グループや児童会館などで使用していただくことを想定し紙芝居風のストーリーをなぞりながら、どのように取材活動を進められるかを知ることができる内容になっております。

現在は冬期実施の子ども記者事業の運営とキッズページの制作を行っております。

1月26日には地下歩行空間で現在製作中のホームページを体験していただくための事業を実施しました。その際のリーフレット等も学生委員会の学生たちが一からデザインをして、つくり上げました。

これまでも学生の方と事業を行うことは何度かあったのですが、一緒に企画を立ててまとめをして、ホームページをつくり上げることを行ったのは、今年が初めてです。また、新たな事業として、さらに今後も深めていきたいと考えております。

次に「ポイント支援講座」についてです。

こちらは、研修学習機能にあたる事業です。サポートセンターでは、これまでも各種講座事業を行ってきたのですが、今年度は新たな取り組みとして、「市民活動はじめて講座」を実施しました。こちらは、市民活動、NPOについて取り組んでみたいけれども、まだよくわからない、もっと知りたいのだという方のために準備している講座です。この講座は、年間3回の予定で9月と11月に実施しております。2回実施で延べ61人に参加していただきました。内容としては、2部構成になっております。前半が座学でサポートセンターの職員から、市民活動についてお話をさせていただきました。そして、後半は、サポートセンターを見学していただき、NPO活動をしている方たち様子やの情報をご覧いただきました。これからNPO法人を設立したいと思っているが、どうしたらよいだろうかという方たちもいらっしゃれば、今、町内会で役員をやっているという方もいました。そして、年齢の幅も広く、20代から70代までの方にご参加いただきました。

施設見学では、支援できる情報助成金情報など、手がかりになる取り組みについてお話を差し上げました。

そして、二つ目の研修学習として「はじめよう 確かめよう 会計基礎講座」を実施しております。

今回は特に初心者向け、基礎の部分にあたる内容でした。講師には、NPO法人ナルク札幌中央かがやきの坂井さんをお招きしました。内容としては座学で会計の基礎知識を話した後、演習ということで、実際に帳簿を書くというものです。

アンケートの結果ですが、8割の方が企画内容についてよかったと言っております。講座の内容については「よくわかった」と答えていただいた方が65%、「ややわかった」も含めると95%の方の理解に達しているという結果になっております。実習の場面では、正面のスクリーンに写したのを見ながら、実際に転記していくというものでした。「町内会の会計を務めたけれども、どうもよくその仕組みがわからないから勉強に来た」という方が、講座終了後に講師と個別に相談するという場面が見られていました。

そして、三つ目は「みんなで進める 会議のコツ」です。合意形成するための会議は市民活動にとってとても大事です。この「会議のコツ」について、NPOファシリテーションきたのわの宮本奏さんを講師にお招きし実施しております。

前半は会議に係る基礎知識ということで、会議の構成・要素について解説をしていただき、後半には、集まった方たちと演習として模擬会議をしていただいております。

アンケート結果としては「理解度」については「よくわかった」と答えていただいた方が90%です。そして「今後の活動に生かせるか」という質問に対しては、100%の方に生かせると答えていただいております。

こちらの事業も年齢の幅は広く、20代から70代までの方にご参加いただいております。NPO活動をしている方を主な対象とした講座ですが、参加者の中には「自分の会社の会議で生かしていきたい」「自分たちのグループの中での会議がいつもつまらないけれ

ども、どうしたらいいか」と考え参加したという方もいらっしゃっていました。

三つ目の事業が交流事業「しみサポつながるカフェ」です。

これは、毎月20日ごろをメドとして開催している事業で、全10回を予定しているものです。内容としては、異分野交流なども含めてフラットな場所でお話ができる、いわばサロンのような事業となっております。各回テーマを設けているのですが、基本的にいろいろな方たちが集まる場所なので、集まった方によって毎回話の流れが少しずつ違っていくのも特徴的な事業であると言えます。

「名刺交換」をテーマにした回が最も人気が高く、たくさんの方に参加していただきました。2時間の設定だったのですが、最後には時間が足りないのもっと長時間で実施するとよいという声も聞かれている事業です。

最後に、統計について簡単に説明をさせていただこうと思います。

利用状況についてです。12月までの累計が5万9,697人となっております。前年対比をしております。前年は、5万9,989人なので、99.5%、人数としてはほぼ前年並みとなっております。変化した項目としては「施設外事業」です。これは、主に地下歩行空間での事業などを差しております。前年度は17日間実施した地下歩行空間事業は、今年度は5日間なので、この部分が大きく変化した理由となっております。しかし、全体としては、前年並みとなっておりますので、施設利用者数自体は増加しております。施設利用についても、人数については前年の106%ですが、件数については97.1%となっておりますので、前年度よりも小グループでの利用が多くなっているとデータで読みとれます。

もう一点、数値については、相談件数についてです。

こちらは、窓口で受けております市民活動相談の件数になっております。12月までの累計は869件です。この中で前年から大きく変動しているのが、NPO法人についてです。こちらは、平成24年度にNPO法人法が改正したことを受けて、平成24年度については、NPO法人に関する相談、問い合わせが多く寄せられていたのですが、今年度については落ちつきを見せたという結果になっております。

今年度の中で最も多い数字は、「NPO法人」についてです。次いで「団体・人・活動の紹介」「事業・イベント」となっております。これは、例年の事業の推移、区分ごとの増減と合っておりますので、ほぼ前年並みの内訳に戻っている状況になっております。そして、前年対比でいくと49件増ですから、前年から増加しております。

以上で平成25年度事業実施状況についての説明を終わります。よろしく申し上げます。  
○河野座長 ありがとうございます。

それでは、ただいまのご説明に対して、皆様方からご意見やご質問がありましたら、お願いいたします。お気づきになった点はありませんか。

○平井委員 ポイント支援講座のはじめて講座がありましたが、私も何人かにご紹介したのですけれども、平日の日中でしたね。それで、参加したいけれども、残念だという声か

あったので、平日の日中のパターンと夜間や土・日などの開催も考えていただけたらと思  
いました。

○河野座長 ありがとうございます。

私から、一つご質問します。

今の相談件数は、2番目に相談件数が多かった項目の相談の中身は具体的にどのような  
ことだったのか、お聞きしたいと思いました。

○事務局（森口係長） 相談件数の上から2番目の「団体・人・活動内容の紹介」の内訳  
としては、大きく二つあり、一つは、個人からの相談で、活動や人についての問い合わせ  
です。もう一つは、活動している団体の方で、事業などで連携を考えているが、対応でき  
るスキルを持っている人や団体はいませんかという問い合わせなどです。

○河野座長 ありがとうございます。

○工藤委員 相談の集計表で、センターについて119件あります。これは、このセンタ  
ーそのものについて教えてほしいという相談ですか。

○事務局（森口係長） サポートセンターの機能についての相談です。他には、ボランテ  
ィアや活動を探すときにここに相談に来てもしよいかという話もあります。他には、団体  
の方たちから、こんな活動をしたいが利用できるのでしょうかというものもあります。

○工藤委員 ありがとうございます。

もう一つ、面談が600件くらいありますが、この内容は、面談に直接来た人という意  
味ですか。

○事務局（森口係長） 直接窓口対応が面談の内容になっております。電話をされた方が  
直接来館されるケースもございますし、実際にエルプラザを利用する中で、ここの施設の  
話をほかの人から聞いて来たということで、問い合わせはなしで直接いらっしゃる方も多  
いです。職員対応相談も含まれておりますので直接来館される方が、多い状況です。

○河野座長 ありがとうございます。

ほかにはございませんか。

（「なし」と発言する者あり）

○河野座長 それでは、次の議題に進んでもよろしいですか。

（「異議なし」と発言する者あり）

○河野座長 二つ目の議題に入らせていただきます。

次期指定管理計画についてです。事務局からご説明をいただきたいと思います。

○事務局（森口係長） 引き続き、私から説明させていただきます。よろしくお願いいた  
します。

今回の説明で使用させていただきますのは、当日配付いたしました市民活動サポートセ  
ンターの指定管理計画書、平成26年から29年の抜粋と書いてあるものです。

この計画は、冒頭にお話を差し上げました指定管理の提案書の中に書いてあるものの一  
部でございます。提案書ではさらに詳細な内容についても記載させていただいているので

すが、今回は、基本的な実施方針と事業区分、大きな流れについてお話をさせていただこうと考えております。

サポートセンターは、設置から10年を迎え、いろいろな方たちに多く利用をいただいている施設です。これからさらに市民活動を広げていくに当たって、私たちがどんなところを目指していくといいかということを考え、この計画を策定しました。特に、一人一人の方が市民活動に参加いただけるように、市民活動の輪が広がっていくように、そして、実際に今、活動している方たちについては、賛同する方をより多く得ながら力強く活動していただくためにも、私たちがお手伝いできることがあるだろうかという内容になっております。

基本的な実施方針は大きく五つ設定させていただいております。「はじめる」「はぐくむ」「理解し合う」「つながる」「たかめる」の5点でございます。

「はじめる」については、個人、団体のスタート支援・インキュベート機能になっております。市民活動は、センター設置当初より比較すると拡大・活性化してきていますが、その一方で、機会が持てない方がまだまだいらっしゃるのも事実です。今年度実施いたしました市民活動はじめて講座は、私たちが想像していた以上に反響があり、参加する方も、実際に市民活動をしている方でも知りたいという人がいましたので、スタートの支援をすることはとても大事な部分であろうと考えました。そして、市民活動が自分の身近な部分である、自分に近い問題であることを伝え、活動しやすい環境をつくり、情報提供していくことが一つ大事であろうということです。

二つ目の方針が「はぐくむ」です。次世代を担う子ども・若者の参画推進ということで、市民活動は大人のものだけではなく、若者や子どもたちについても参加していくことができるものだと思います。世代交代をしながら、次の世代にバトンを渡していき、広がっていくことが望ましいと思われまますので、特に若年層に向けた活動に力を入れた計画を立案しています。一部、スタート支援にふくまれる事業もあろうかと思いますが、特に重点を入れる部分として、若者世代、子ども世代を挙げております。

三つ目は「理解し合う」です。今年度実施した交流事業では対話をしながら相互理解する場所がとても重要であるということを再確認できました。このことから、特に対話をすることに力点を置いた事業を展開していこうと考えております。いかに相手が必要としているニーズを捉えていくか、逆に、自分たちが伝えたいと思っていることを会話の中でどのように伝えていくかができるような場づくりを進めていきます。

四つ目が「つながる」です。こちらは、地域を初めとするコミュニティと市民活動の橋渡しです。市民活動は、いろいろなセクターの人たちとつながっていくことも重要です。札幌市内には、市民活動プラザ星園やあけぼのアート&コミュニティセンターや道立市民活動促進センター、北海道NPOサポートセンターなど、NPOに係る中間支援施設、組織が複数あります。その方たちと十分に連携をとりながら、さっぽろの市民活動がさまざまな地域に広がっていくための橋渡しをしていこう、そのためのきっかけづくりをして

いきます。さらに、これまで決して十分とはいえなかった個人の方たちの潜在的な参加意欲にアプローチしていきたいと考えております。

五つ目が「たかめる」です。これは実務能力の向上、ひいては「必要とされるNPO・活動」に係る研修と情報公開になります。必要とされるNPOとはどんな組織だろうかということは、十分に話し合いをしながら計画を立案しました。活動に賛同する方や協力者を得るためには何が必要だろうかと考えたときに、しっかりと団体運営と、情報の透明性が必要であろうと考えました。そういった活動につながっていくように、より一層の力をつけていただくための機会づくりを私たちが提供できればと思っております。具体的には、今年度も実施しました会議や会計といった実際の活動に係るスキルアップにつながる機会を設定していこうと考えております。

研修・学習のテーマ設定については、難しいところがあり、どういうものが必要とされていかということ、いつも悩ましく考えているところです。例えば助成金を取り上げるとして、助成金の何の情報が必要なのかまで掘り下げていかないと、本当に必要な事業となっていないと考えられますので、ぜひ、委員の皆様にもアドバイスをいただきながら、次の事業につなげていきたいと考えております。

最後説明させていただくのは、市民活動への参加モデルです。

どのような流れでこれらの事業が体系化され、多様な地域課題を市民の力で解決できるまちにつなげていくためには、どのような事業がそれぞれの場面、局面で生きてくるのかを表したものです。

ステップは全部で四つあります。一つ目が「気づく」です。どんな方たちが、どんな活動をしているかを知らなければ、活動をしようという気持ちにもつながってまいりません。そのためには、情報提供や気づいた方たちを支援するためのインキュベーション事業、これからの活動をするための子どもたちや若者の支援は、この部分に当たる事業であると考えております。

次に必要とされるものは「交流する」ことです。自分たちのミッションのための活動も重要ですが、そのほかにも、いろいろな団体と交流しながら活動を広げていくことが大切です。地域での活動ではNPOとの出会い創出事業、NPO同士の交流事業なども書いております。

次のステップでは「学ぶ」です。マネジメントとしておりますが、組織強化に当たるための研修機会があげられます。

そして「実践」を進めていくことで、市民の力で解決できるまちにつなげていこうということが私たちの計画です。

そして、全てのベースには「市民活動への理解」が必要です。市民活動への理解を得るための機会をつくっていくのが私たちの大きな使命であると考えております。

さまざまな場面で市民活動団体が広がり、期待されるアクションとしては次の五つとしました。事業への参加、ボランティア協力、団体への参画、そして団体を組織すること、

そのほかに寄附や支援で支えていくことです。これらのアクションにつながっていくような事業展開をこの4年間でしたいと考えております。

委員の皆様にもたくさんアイデアをいただきながら、次の4年につなげていきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

○河野座長 どうもありがとうございました。

ご説明の中にもアイデアをいただきたいというような話がありました。委員にお聞きしたいところは具体的にどういうことか、今の話の中にもありましたが、もう一度ご説明いただけると発言しやすくなると思います。

○事務局（森口係長）

次期指定管理で特にお知恵をおかりしたい部分は、NPOマネジメント講座です。研修学習に関する部分で、具体的なテーマはどういったものがよろしいのか、どういったところにニーズがあるのかというところをお伺いしたいと考えております。

ちなみに、これまで、私どもがどんな講座では主に広報のこと、会計のことは触れてきました。そして、今年度については、新たに「NPOの基礎」「会議」に取り組みました。

今年度の特徴としては、対象をかなり絞り込んだことです。アンケート結果にありましたように、絞り込みをすることにより対象が狭くなっていくような気がするのですが、実際には、多くの方に参加していただき、ターゲットにマッチした内容が提供できたのではないかと考えております。

そして、これまでの講座で取ったアンケートでは「今後取り上げてほしいテーマはどんなものがありますか」ということも聞いております。主要なものとしては、NPO・市民活動について、法人の設立、広報全般、インターネット、フェイスブック、ブログ、チラシについて。具体的には、インターネット、紙媒体のチラシなどのことが多く上がっております。そして、ファシリテーション、会議、合意形成などがあります。

さらに、イベントの企画の方法、会員・ボランティアの集め方、資金の管理、助成金、寄附金、簿記、活動計算書、税務、労務もあります。これらの意見が主要なものです。

皆さんの団体が本当に欲しい情報はこういったところなのか、ぜひ具体的なアドバイスをいただければと思っております。

○河野座長 私たち委員に求められることをより具体的にお話しいただきました。事務局は、次年度から始まります新たな計画づくりの中に反映していけるご意見をいただければという思いを持っているようですので、ぜひ、こういう講座があつたらいいのではないかなというようなご意見、アイデアをいただければと思います。

会計や広報も講座としてやっていて、今年度については、会議のあり方なども含め、スタート事業、インキュベートについても始められているようです。そういうことも含めて、より高めていける、充実していけるようなご意見でも構わないと思います。ぜひ皆さんのご意見をいただきたいと思っております。

○工藤委員 とても細かく、たくさんの方の企画や考え方を披露していただきました。しかし、

最も大切な市民活動サポートセンターそのものがどういうところか、何なのかを知らない人がたくさんいるのではないかと思います。まず、ここを市民に知っていただく方法ですね。広報の中に入れるとか、いろいろなことをやっていただいているのでしょうけれども、いまひとつわかってもらえていません。この場所というよりも、ここでやっていること自体をわかっていないと思います。知っていただくということが最初に必要かと思います。

数字を見ていても、それなりに参加していると思いますけれども、恐らく一定の人というか、関心がある人だけが来ていると思います。とても積極的に市民とつながることをサポートしているにもかかわらず、それがあつたということがちゃんとわかっていない人たちが圧倒的に多いのではないかと思います。ここを何とかすることも必要ではないかと考えます。

審議の内容とは違う方向ですが、そこら辺も今後の題材にさせていただければというのが私の意見です。

○河野座長 ありがとうございます。

先ほどのポイント支援講座でも、市民活動サポートセンターを利用しようという項目もあつて、恐らく、そういうところでも一生懸命ご紹介しながら、ここではこんなことができますよということをお伝えされていると思います。しかし、全体的にはそういう課題がまだまだ残っているということだろうと思います。

○松本委員 札幌市の市民活動促進担当課の出前講座にそういうものはないですか。

○事務局（森口係長） あります。

○松本委員 一緒に出前講座に出られるのですか。

○事務局（森口係長） はい。

○松本委員 そういうものもありかと思いますが、それは、逆に、指定管理者のほうからは言いづらいことかもしれないので、こちら側から札幌市に直接言うべきかもしれません。出向いていくスタイルもあるかと思いますが。

森口係長は、環境プラザにいらっしゃったときは、よく施設外で事業をされていましてね。中間支援の全般的な話ですが、中間支援の人たちは外に出ていかないという印象があります。出前講座を一緒にするとか、どんどん外に出ていかれてはどうかと思います。「ミニしみサポ」みたいな感じで地域のイベントに出ていくことがあつてもいいと思いました。

あとは、ピンポイントで、各論的に具体的な講座でこんなものという提案としては、アンケートのつくり方、集計、分析をどこかでやってくれないかといつも思っています。アンケートは、すごく簡単そうですが、私はつくるのが下手なのです。このあたりは、コンサル会社がすごく得意とするところで、何かをやりたいときに、そのニーズはどこにあるか調査したことがあるかといったときに、事前に調査をしていると企画提案が通りやすく、話を聞いてもらいやすいのです。そこは、形式的ですけども、アンケートがすごく重要な要素を占めています。そのつくり方や仕掛けの無料講座があつたら、私はぜひ参加したいと思います。

○小田委員　まさしくそのとおりで、私どもも、事業をやるためにアンケートをとります。切り口を変えてアンケートをとれたらいいなと思います。やはりプロはプロなので、プロの話も聞いてみたいと思います。特に、つくり方ですね。分析は、自分のところである程度のデータさえそろえばやれるのですが、そういうことも細かくやってみたいと思います。

さっき工藤委員がおっしゃったように、私たちのようなしょっちゅう来ている者にとっては、ここを知らないのかと覚えることが非常に大きいのです。しかし、確かに外向きではないです。来た人は、どういうことをやっているかということも雰囲気である程度わかるのですけれども、全く来たことがない人には、さっぽろ駅の北口にある施設でというふうに説明しなければいけない状況が結構あるわけです。

今年のものには出ていなかったのですが、私の記憶では、去年、チ・カ・ホでいろいろな市民団体がPRして、きっかけづくりを行いましたね。ああいうことをすることで、その団体の会合はサポートセンターでやるとか、何でもいいからきっかけをつくる必要だと思います。あそこは、1日5万人ぐらい通るのですから、そういう人たちを相手にやってみることも必要かと思えます。もっと外向きになってほしいという感じはします。

○河野座長　ありがとうございます。

ほかの委員もどうぞ。

○佐々木委員　皆さんおっしゃっている初めての方をどうやって引き込むかということについてです。

私は、昨年、千歳に移住しました。もちろん「飛んでけ！車いす」の会の活動は続けているのですけれども、千歳でも身近におもしろいことがあれば協力したいと考えています。ただ、こういう市民活動をやっている建物があるとは知っていても、そこに入ってどこに行けばいいのか、フロアがどうなっているのか、入ってみるのが怖いなと思って、千歳に半年以上住んでいるのに一度も入れていません。やはり、ちょっと敷居が高くて、どうしたらいいのかわからないというのが正直な気持ちです。

私が市民活動を始めたのは大学生のときですけれども、そのときにNPOというものがあると聞いて、何かしたいと思いインターネットでいろいろ調べました。でも、その一歩が踏み出せないでいるときに、先輩の紹介でサポートセンターに来ました。やはり、コネクションがあって、人と一緒に来て入りやすかったということがありました。では、今、コネクションのない千歳でどうやってその一歩を踏み出そうかという、ちょっと敷居が高いと感じています。

私も友人にエルプラザの説明をするときに、やはり北口の施設で、こういう団体がいてという話はするのですけれども、あそこは少し入りづらいと言われたこともあります。ですから、松本委員がおっしゃったように、大学生で市民活動をしたいと思っている方もたくさんいらっしゃると思うので、大学に行つての講義や、外向きの活動がどんどん出てくると、初めての方が入りやすくなってくると思えます。今、私も初めての地に行つて同じような気持ちでいます。一般市民の方がもっと入りやすいところで、使いやすいところで

あることがわかってもらえるような活動ができてくるといいと思います。

○工藤委員 今の話はとても大事だと思います。外に向けてのきっかけづくりは、とても大事です。

私自身は、病院にずっと勤めていて、5人以上いれば院長、副院長はみんな医療の講演に出かけていく、外に出て行って、医療をよく知ってもらおうというのと同時に、患者につなげる、もし具合が悪くなったときはいつでもということをやってきました。ですから、外に出ていくことは、結構つながってくるきっかけになりますので、ぜひ、もう少し外向きのことをやっていただければと思います。

私は、今回、この委員になっても、いまひとつ私自身がここでちゃんと活躍した感じがしないのです。これは、私自身もまずいなと思っていたのです。そういうのを含めて、何かもう少しできること、みんなに知ってもらえる方法をつくる必要があるかと思います。

○河野座長 泉委員、お願いいたします。

○泉委員 本当に皆さんがおっしゃったとおりだと思います。私は、今年で65歳になりますので、老年に入ってきました。

ここに集まってくるNPOも含めて、やはり、市民は意識を持っています。個人的にそれなりにモチベーションを何らかの形で得ることができています。ただ、市民活動ということであれば、全ての市民に対して働きかけない限り、最終的には自分たちの意見に賛同してくれる仲間うちだけの自己満足的なものに終わってしまうのではないかと思います。私も今、夜間中学校の活動をして、そこに陥っているのではないかと言う感じがします。

やはり、町内会の総会に出てもそうですが、高齢化してきて、子どもも少なくなってきました。しかし、子どもが活動の中心にならなければ未来に向かっていきません。老人だけの親睦会になってしまっている感じがします。多分、どこの町内会も役員が大変困っていると思います。特に、老人は、意識があったとしても、まち中まで出てくるのは物理的にどんどん大変になってきます。そういう意味では、これから地域で主たる活動を担っていくのは、私も含めた老年期の人たちだと思うのです。老年期の人々の人口比がふえてくるので、その地域で活動したいということだと思います。そこには、さっきも言っていましたように、動かないで待っているのではなくて、やはり地域に出ていく、自分たちの手だけで足りない場合は行政が率先していかなければだめだというふうに、行政に働きかけなければなりません。さらに、せつかく集まってきている意識の高いNPOを含めたいろいろな活動をしている方も地域にどんどんつなげていただくと、かなり違うのではないかと思います。

私は、夜間中学校に来るお年寄りを見てつくづく感じるのは、人間は、子どものときにはもちろん好奇心旺盛で学びそのものですが、日本の大人は学校に嫌な記憶があって、大人になってまで学びたくないという思いがありましたけれども、今は変わってきていると思います。実は、人間は、死ぬまで学び続けることに対してすごく意欲を持っていて、それは他の動物とは違う人間らしさだという気がしております。

そういうことから考えていくと、今、子どもの学びを学校の教員という専門家に任せてしまっています。先ほど、キッズページプロジェクトの話がありましたけれども、これも意識的な子どもに來なさいというやり方ですね。そうではなく、子どもの学びを支えるためには、専門家に任せるのではなくて、地域の老年の人たちが自分たちも死ぬまで学んでいるよという姿を子どもたちにどう伝えられるのかだと思っております。今はそういう仕組みにはなっていません。多分、今の日本に一番欠けているのはそこだと思っております。そういう老年が中心になって子どもの学びを環境として支えていく、さらに大人の学びが一番外側の大柱になって、学びを中心にこの三つが含まれるという環境が大事だと思います。

いろいろな活動があるけれども、一番底に共通に流れているのは、学び続けるということだと思います。そういう視点で、ぜひ市民活動サポートセンターも、地域と子どもや老年期の人たちとどうつながっていくのかをもっと考えてほしいと思います。僕は、今、口で簡単に言っているけれども、具体的に何をすることはすごく大変だと思います。少なくとも、多くの団体が自発的に活動してきたすばらしい経験や実例があるわけですから、それをもとにつながり、広めていくことで、特に町内会の役員のなり手がなくて物すごく行き詰っている状況を打開できると思いますし、かなり変わってくると思います。

都市型は、どうしても先進的な意欲のある人たちだけが中心に集まってしまうという一番ずい短所がこういう活動にもあらわれてきていると思います。

○河野座長 ありがとうございます。

ここを中心としながら、いろいろな活動があって、その活動と地域をつなげていく役割を、学びをキーワードにしながらかやっていくのもセンターの役割ではないかというご意見だったと思います。

○服部委員 今話を聞いていて改めて思ったのは、私どもの施設でも78歳の方に働いていただいています。36年間、中学校の英語の先生をしてこられて、再就職をしたいということで何度も面接にチャレンジしながら、どこも受からなくて、やっと私どものところに就職をされたそうです。本当に誰よりも元気で、みんなが風邪を引いている中、その方だけが風邪を引いていないとか、除雪も一番喜んで飛んでいかれるし、本当にこういう戦力がまだまだ眠っているのではないかと思います。そして、英語をみんなに教えるのもとても上手です。わざわざ専門家に頼んだり、若い方ももちろん大切ですが、そういう眠っている人材はほかにもまだまだあると思うのです。

また、最近では、かま栄の専務をされていてパンロールを発明された方が私どもの事業に興味を持っていただいて、今までの取引先にお話をし、こういうNPOがあるからぜひ応援してあげてほしいという活動をしてくださっています。私たちは、本当に貧乏法人なので、高級なお金は出せないと言ったら、家で本を読んでいるだけだから、今までお世話になった分の社会貢献をしたいので、ぜひ協力させてほしいということで動いてくださっています。その方ももう70歳近いです。

そういうふうに、まだまだ活用できるという言い方をするとおこがましいですが、市民

活動サポートセンターで見ていると、若者向きの講座が多いと思います。そういう方たちが講座を受けて、あなたたちもまだまだNPOなりで働くことができるよというきっかけづくりになるような場所の提供や講座の提供があればいいなと思います。やはり、ハローワークに行ってしまうと、年齢制限にひっかかって仕事もない、ボランティアも若者でないといふことなのですが、実際に働いてみれば、一番働くし、経験もあるのです。

私どもは、町内会新聞を編集して配るようになってから、本当に町内会の会員もふえたので、そういうところに活動していただく方々はまだまだいます。せっかくなので、今度はここが若者に引き継ぐ活動をするためのかけ橋になっていけばと思っております。

○河野座長 ありがとうございます。

高齢期までいかない少し下の世代で、まだ元気があって活力がある人たちを対象にした講座もいいのではないかと、出ておいでというか、一緒にやりましょうというか、働きかけができる講座があってもいいのではないかとということです。

○平井委員 今、退職された方もということでしたが、昨年、私は、小さなお子さんを連れてたまたま出かけました。日曜日の人ごみで、食事が終わった後に子どもが飽きてどうしようかと思ったときに、エルプラザに行こうと行って環境プラザに連れてきたら、こんないいところがあったのかと言っていました。その中で、あそこは何ですかと聞かれて、市民活動サポートセンターで、いろいろな団体が登録しているという話をしていました。ご高齢の方もそうですけれども、子育てしているお母さんも、こういう団体があったらいいな、自分もこういうことができるという方が結構たくさんいらっしゃると思います。ですから、はじめて講座でも、例えばお子さんを連れて参加できるような講座や、託児をつけた講座をしてくださるといいかと思います。

○小田委員 実は、ここの4階の料理実習室を使ってイベントをしました。そのときに、5歳の子どもと2歳の子どもを連れてくる人がいて、これはまずいと思いました。そうしたら、ほかから入ってきた情報で、エルプラザにある託児室を借りたらどうですかと言われてました。結局、そういうところがあるということもわからないのです。やはり、わかることが必要ではないかと思いました。

自分たちが使ってみて、今度使うときは育児施設がありますよということでもやろうという話になっています。やはり、そういうことは必要だと思いました。

○河野座長 私たちも、乳幼児を連れてきたお母さんたちは、託児が必ず必要なもので、男女共同参画センターとしては、そういう形で学習会を開いています。しかし、市民活動サポートセンターでは、そういう意味ではまだまだ知られていないのしょうね。だから、乳幼児を抱えた若いお母さんたちもここで活動ができますという広め方も一方で必要ではないかということですね。

○平井委員 話が飛んで、今度はマネジメント講座のことです。

私も、広報のチラシ作成の講座には参加させていただいたことがあります。チラシをつくるまではいいのですけれども、それをどうするかということと、皆さん何かイベントを

するときどういうふうに発信したらいいか、人を集めたらいいかを悩まれると思います。ですから、無料のフリーペーパーに載せるにはこういう方法があります、例えば、「ボラナビ」に載せてもらうには2カ月前の何日に載せてもらうといいとか、お子さんの何かをやるときは、幼稚園、保育園で無料配布している「C o u l e u r」に載せてもらえる可能性がありますとか、厚別区だと「まんまる新聞」がありますね。

イベントを企画したが広報をどうしたらいいかと悩まれている方もたくさんいます。昔は、新聞に告知文を載せると、黙っていても人が集まったのですけれども、今はそういうこともないです。また、インターネットの環境にない方もたくさんいらっしゃると思いますので、アナログな発信の仕方など、もう一步踏み込んだ広報の仕方の講座をしてくださるといいかと思いました。

○松本委員 私は以前、E P O北海道、環境パートナーシップオフィスというところでしたのですけれども、そのときに、今おっしゃっていたようなメディアへの広報の仕方リストをホームページに作成して載せていたことがありました。それは、道内各地を旭川や北見、釧路、函館という圏域に分けて、フリーペーパーに載せられるものもそうですし、意外と知られていないプレスリリースの仕方ですね。記者室への投げ込みの部数や、どういところが記者室に入っているとか、ここにファクスなりメールなりを送ると取り合ってくれるというようなリストを載せておりました。もしかしたら、そういうものを拾い集めて載せるだけでもいいかもしれませんね。意外と知られていないと思います。

○小田委員 それは、絶対に聞きたいです。

○河野座長 要するに、つくった後ですね。団体は、きっといろいろな知恵を出しながらやっていると思いますけれども、そういうものを集約して、整理して、こういう形もありますというものがあつたらいいですね。

ほかにございませんか。

○鈴木委員 今まで話されたことは、全て有効に使えるような感じはするのですけれども、実際にサポートセンターの事業としてされるときに、どういうアウトプットの方法があるのか、そこまでできるのだろうかというところがひっきりながら聞いておりました。

私が一市民として見る限り有効かと思うのは、広報さっぽろに載せていることがありますが、載せ方の工夫はもう少し必要かと思います。

○工藤委員 エルプラザの行事が載っていますね。

○鈴木委員 そうですね。

あくまでも市の事業としてやると、中身的に魅力がないのです。その辺で、アウトプットの仕方をもっと工夫しなければいけないと皆さんおっしゃっているのではないかと思います。でも、それは本当にできることなのかと先ほどから思っていました。民間だからこそ、いろいろなことを言うてできるのですけれども、それをこの事業体でどこまでできるのか、聞いてみたいと思っていたのです。

○河野座長 とりあえずは、私たちの意見を聞いていただいて、具体的には事務方でやっ

ていただく作業になるかと思えます。

広報は、このごろは特集が多いですね。子育て支援なら子育て支援の特集が組まれています。その中に、サポートセンターも入れていただくこともありかもしれませんね。それが可能かどうかわかりませんが、鈴木委員のお話を聞きながら、そんなことも思いました。

事務方から、今のご意見に対して何かありますか。

○事務局（蓮井課長） NPOのはじめて講座の件は、今年の流れの傾向としては、シニア層や初めての方と対象を絞り込んだところがいいという気がします。私たちは、去年やおとしに事業をやったときには、その辺りがぼやけていました。これから始めたい人とか、対象をばふらっと設定したものですから、ヒットしなかったのです。

今年のNPOのはじめて講座は、試行でした。来年から本格的に進めてまいります。私たちが視野に入れているのは、町内会や高校や中学校に行ってNPOや市民活動とは何かということをお伝えしたいということをもくろんでおります。

やはり、皆さんがおっしゃっていたように、私たちがここには市民活動のことをお伝えすることができないものですから、来年度は、積極的に外に出て行って、話をさせていただこうと思っています。市民活動とは何かという話ができるのは、私どもサポートセンターだけなのです。皆さんが社会的な課題の解決に向けて進んでいくためには、その基本的な理解がないと、市民の皆様にも賛同していただけないし、寄附もいただけないし、こんなことも進んでいかないという気がしております。

子どもの事業に関しましても、私たち活動協会全体で見ましたら、児童会館という施設が中学校区に一つあります。そこを足がかりにして、今年度やらせていただいた子ども記者の事業をテキスト化して、地域で使っていただけるような展開を考えています。これも、1年、2年でできるものではないものですから、4年間をかけて、じんわりと町内会の中にするっと入っていけるような流れを考えております。

マネジメントの講座は、私たちスタッフが活動団体に入って実践している例がなく、具体的な悩みや困っていることはなかなか見出せてはいないです。広報や会計は出ているのですけれども、先ほどおっしゃったように、どんなことで困っているかを聞かせていただければ、総合して広報の講座を考えたいと思っています。

私どものところに登録していただいている団体は、2,000団体あるのですけれども、やはり小さな団体が多いのです。中には自分の所属している団体のリーフレットさえもおぼつかない方もいらっしゃいます。それはなぜかというと、活動に一生懸命だからです。これからいろいろな人に自分たちの団体を伝える方法の一つとして、リーフレットなり、ホームページなり、フェイスブックなり、それぞれの方法があれば教えていただいて、それをいい形で盛り込んで、毎年、毎年、皆さんに提供できるプログラムを組んでいきたいと思っています。

○河野座長 ありがとうございます。

ほかにいかがでしょうか。

○小田委員 リスクマネジメントはどういうことを想像していらっしゃるのですか。

○事務局（岩寄館長） この4年間では、三つくらいの例を挙げたいと思います。

一つは、東日本大震災の後に、むすびばという市民団体のグループができました。そのときに、実は、私どももかなり冒険をしております。2階の交流スペースに、3月17日から5月いっぱいまで、むすびばのブースをつくっていただいたのです。これは、本来、誰でも自由に使えるところをある団体に貸すわけですから、苦情が来ることを想定しながらこっちはやっているわけですが、苦情が来なかったのです。

もう一つは、1階の情報センターですが、市民の方からの苦情というよりも、札幌市の行政評価委員会というかなり権威のあるところから、おまえのところの情報センターは図書館なのかどうか、図書館だとすると、あんなにいい場所にありながら何であんなに閑散としているのだという言い方をされました。私どもは、図書館のつもりはなくて、情報センターであったのですが、それをきっかけに思い切って変えたのです。例えば、あそこは新聞をお読みにおいでになる常連がいらっしやったのですけれども、新聞の閲覧をやめました。図書を全部外に出して、誰でも自由に引き出せていたのを、閉架式にして資料請求をしないと出さないようにしました。図書館ではないので、静寂を求めるのではなくて、極力イベントをやって、あそこで情報のキャンペーンをやっていくようにしました。これも、かなりリスクを感じたのですけれども、予想外に苦情は少なかったです。今は、そういうものだというふうにとめられています。

ここまでは、うまくいった例です。

苦慮したものとしては、ある展示会があったときに、反対勢力がヘイトスピーチのキャンペーンをエルプラザの前でおこなったことがありました。これは、リスクマネジメントとすると最悪で、私たちもこの争いの中に巻き込まれてしまいました。

ですから、結論は全く出ないのですけれども、例えば、市民ニーズみたいなものと私たちがどうあっていくかということをちゃんと想定してやっていくというのがリスクマネジメントであろうと思っております。

○事務局（岩寄館長） NPOには、それぞれのリスクマネジメントがあると思います。

○河野座長 よろしいでしょうか。自分たちで気づき、それに果敢に挑戦するという事業が持てるのかということも講座の中に含まれてやるのですね。

○事務局（岩寄館長） リスクマネジメントは、今後、物すごく重要だろうと思います。

○河野座長 どうですか。

○鈴木委員 今のリスクマネジメントに関して、実際にサポートセンターの中で活動している団体同士の横のつながりがとても大切だと思いますし、できるものならば、一緒に事業をやりたいと考えております。

実は、3月にも合同の勉強会をやる予定です。それは、今、ブースに入っている円ブリオと一緒に、出生前診断ですね。言ってしまうとデザイナーズベビーまでいってしまうのですけれども、それについてやってみたいと思っております。エンブリオは、生

命尊重ということで、できれば中絶もしないということを援助、サポートする団体で、立場が非常にはっきりしています。それに対して、私たちは、そこは個々に考えるしかない、それぞれが考えるという立場なので、そういう意味では全く違うのですけれども、それもおもしろいのではないかと考えてやるのです。ただ、それも一つのリスクではあります。

もう一つ、昨年、内部で問題になったのは、私たちは勉強会をするので、例えば医師や、普通にコンタクトできないような方たちに講師に来ていただいたりすることがあります。そうすると、その人たちとコンタクトをとりたいと思っている事業者がいらして、紹介してもらえないだろうかとか、そういうことも一切なくて、私を飛び越えていってしまったということもありましたので、非常に気をつけなければいけないととても思っています。

リスクマネジメントとしては、私どもの団体では、そういうことが今後もあるだろうなと思います。

○河野座長 具体的な話をさせていただいて、理解が深まったと思います。ある意味、それぞれの団体が抱えているところもあると思います。いろいろな事業をやっていく中で、これは少しまづかったとか、やってみたらうまくいったとか、そういう話もきっとあると思います。そういうことも含めて交流できると、事業をつくっていく上では、あるいは、市民活動を広めていく上でもいい結果になることもあると思います。とても重要なところかもしれないですね。

○小田委員 今おっしゃったようなことが具体的に出てきたときに、相談業務としてあるのはわかるのですが、講座として持つのはどうかという感じがします。このくくりの中に本当に入れていいのかどうかと思います。

○河野座長 ケースによってもさまざま違うことがあると思います。

ちょうど時間になりましたので、そろそろこの議題については終わりたいと思いますが、よろしいでしょうか。

(「異議なし」と発言する者あり)

○河野座長 ありがとうございます。

それでは、最後の三つ目の議事です。

事務ブースの使用団体選考委員について、事務局からお願いいたします。

○事務局（森口係長） 事務ブースの選考委員会の委員についてです。

皆様のお手元に配付させていただきました事務ブースの貸し出し要領の第7条に選考委員会という項目がございます。その中では、委員としてサポートセンター事業運営協議会の委員のうちから選出するということが記載されております。

前回入居分は、平井委員と松本委員にお願いしました。前年度は、年度末の更新の選考委員と次の入居の選考に関して、事務局としては、引き続き、松本委員と平井委員にお願いしたいと考えていますが、よろしいでしょうか。

○河野座長 いかがなものでしょうか。

引き続き、平井委員と松本委員にお願いしたいというご提案でした。ぜひ、引き続きお願いできればと思いますが、よろしいですか。

(「異議なし」と発言する者あり)

○河野座長 では、お2人には、どうぞよろしくお願いしたいと思います。ありがとうございます。

議事については、この3点で終わりになります。

#### 4. その他

○河野座長 最初に言いましたが、今回で第6期事業運営協議会の委員の任期が切れるということですので、最後に、皆様から一言ずつ感想などいただきたいと思います。

それでは、泉委員から順番にお願いします。

○泉委員 皆様のご意見が活発なので、発言するチャンスがなくて、余りお役に立てなかったなと反省しております。私としては、逆に皆様のお話を聞いて大変勉強になりました。本当にありがとうございました。

○小田委員 全然知らない方ばかりだったので、そうかというような感じでした。鈴木委員とは別のことで縁ができて、これからやることがあります。ただ、立場が変わればそういう見方もあるのだなということが非常に勉強になりました。私どもは、どうしても同じ年代の人間が集まっていますので、大変勉強させていただきまして、ありがとうございました。

○工藤委員 この中で、私が一番年上でして、72歳になりました。仲間に入れていただいて、本当にありがとうございます。

本音を言うと、ちょっと消化不良です。何もしていないというか、市民活動のサポートというのは、多分、よその地域にはないものがここにあるということと、私が何かできるのではないかという期待をしながらも、そういう部分で自分自身は全く動けませんでした。ただ、皆さんと知り合えたことがとても大きかったです。しかも、一度、飲み会をやりましたので、そういう意味ではとても大事だったと思います。

一つ、鈴木委員のところを応援できたらと思って、1回だけ参加させてもらいました。

もっと交流したかったというのが本音です。また機会があったらと思います。

ありがとうございました。

○佐々木委員 本当にありがとうございました。

私たちは、国際協力をやっているNPOとネットワークをつくっているのですが、全く関係のない業種の方々と接することが余りなかったので、皆様のご意見やいろいろなアイデアを聞くことができ、本当に勉強になりました。

また、ここに参加するまでは、市民活動サポートセンターの事業にお客様の感じで団体として参加していたと思っていて、もっと実施する側として協力して何かを一緒にできたらいいなと非常に感じております。今度は、一団体として、もっと積極的に参加していけ

たらいいなと思っていますので、またよろしく願いいたします。

ありがとうございました。

○鈴木委員 私は、割と何にでも興味を持つものですから、小田委員やいろいろな方にお声をかけさせていただいて、今度は松本委員にもと思っています。いろいろな方に助けていただきながら、自分の事業のためというよりも、本当にどういうことをやっていращやるのかという興味でお話を伺わせていただいています。皆さんそれぞれがミッションを持っていращやるので、何か協力してできることがあればなとすごく考えています。

今後も、皆さんにお声がけさせていただきたいと思いますので、どうぞよろしく願いいたします。ありがとうございました。

○服部委員 実は、私ごとですが、先週、私どもの施設の精神障がいの30歳の男の子が火災で亡くなりまして、遺体で発見されて、先週は、ずっと泣いてばかりで、ひどいくまをつくっていたのです。その男の子は、私がここのサポートセンターで事業委員をやっていることを、服部さんはあんなところでやっているのですか、すごいですねと言ってくれていました。きょうは、その男の子のことをしみじみ思い出しながら会に参加させていただいていました。

私自身がここの委員公募に応募させていただいたときは、NPOを理事長として立ち上げたばかりで、まだ無職のフリーターぐらいの状態だったのです。本当に、このお役をお引き受けできるのかというところで、不安で、不安で仕方がない気持ちで最初は参加させていただいたのです。そうやって事業を立ち上げて、すごいねと言ってくれる男の子にめぐり会えて、皆さんと一緒に活動できて、本当に貴重な2年間でした。

今回で委員は終わってしまうのですけれども、地位が力をつけるではないですが、私にたくさんの力を与えてくださったことに感謝して、これからもご協力できることはさせていただきたいと思っています。ありがとうございました。

○平井委員 ふだんお会いできない皆さんにいろいろな意見を聞かせていただいて、とても本当に勉強になりました。

私も相談を受けていまして、本当に1人でたくさんの困難を抱えた方からの相談があるのですが、行政の支援から漏れてしまうのです。そういう方をNPOのネットワークで支援することができたらと思っています。また、そういう方が困ったらしみサポに相談しようというふうになっていくといいかと思っています。2年間、本当にありがとうございました。

○松本委員 私は、自分の団体というより、もともと中間支援の団体にいた人間として厳しいことを最後に一つ言わせていただきたいと思います。

やはり、4年間限定とはいえ、指定管理者という安定した中で事業をやれるのは、非常にうらやましいです。私は、EPO北海道の前は、民設民営のNPOサポートセンターにいました。自分たちで事業をとってこないとお給料を稼げません。はっきり言って、それでも安かったです。緊急雇用事業や毎年いろいろなところから予算を取ってきて、何とか

食っていくという感じでした。やはり、安定した中でやれるのは非常にうらやましいことです。すごく縛りがあるのは重々承知の上で言っているのですけれども、ぜひ、いろいろな提案を受けた中で、一つでも、二つでも実現できるものがあればやっていただけたらと思います。これからもよろしく願いいたします。

○河野座長 ありがとうございます。

私も、座長を引き受けましたが、うまく進められない場面がいっぱいありました。皆様のおかげでのご協力をいただいて、この2年間を過ごすことができました。

皆さんがおっしゃっていたとおり、本当に勉強になりました。私も、ここの話は余り外に言わないようにしていますが、学生と向き合いながら、市民活動の大切さ、市民であることを若い人たちにこれからも伝えていきたいと思っています。きょうの話の中にも、若者たちにそのことをどれだけ伝えて、若者たちに参加してもらえる条件をつくっていくかというのは、大学あるいは高校などの学校サイドの指導の問題もあるだろうなと思いつつ、戒めておりました。

皆さん、2年間、本当にありがとうございました。心から感謝を申し上げます。

それでは、札幌市の市民活動サポートセンター第6期第4回事業運営協議会を閉じさせていただきます。

心から感謝を申し上げます。ありがとうございます。

○事務局（山崎） 河野座長並びに委員の皆様、ありがとうございました。

今回の会議の概要は、作成後、各委員へお送りいたします。内容を確認いただき、返信をいただきたいと思います。集約後、市民活動サポートセンターのホームページに掲載いたしますので、どうぞよろしくお願いいたします。

最後になりましたが、札幌市市民活動サポートセンターを代表して、蓮井よりご挨拶を申し上げます。

○蓮井課長 委員の皆様、2年間、本当にありがとうございました。

きょういただいたご提案や、前回の3回までにいただいたお言葉は、しっかり胸に刻んで、4月からまた事業を進めていきたいと思っています。

今まで、私たちの事業なり施設の運営は、私たちだけでやろうと考えていた節があります。どこか肩に力が入って、自分たちで企画して、自分たちで進めようと思っていました。でも、ふと見回したときに、私たちより先輩がたくさんいて、知恵を持っている人たちがたくさんいて、その方たちを巻き込んで一緒にやったほうが、もっと楽しくて、もっといろいろな問題が解決できるのではないかということに今年やっと気づくことができました。そして、今年の実業では、講師をNPOの方をお願いしたり、実行委員を形成して事業を組んだりもしています。これは、来年度も続けて行って、みんなの市民活動サポートセンターをみんなで運営して、いい社会にしていきたいと思いつつ事業を進めてまいりたいと思います。

振り返ってみますと、先ほど岩寄から少し話が出たのですけれども、2011年の東日

本大震災が起こったとき、いち早く何とかしなければと思う人たちが3月17日にこの会場でつながっていきました。この市民活動サポートセンターで第1回目の寄り合いが行われて、その後、幸せなことに、しみサポの中にネットワーク団体の事務拠点が置かれました。今まで、パブリックな場所に1団体の占有許可を認めたことはありません。しかし、未曾有の大震災に立ち向かうためには何とかしたいと思う人たちが集まれる場所が絶対に必要であること、何よりも公イコールパブリックはみんなのものであること、結果として、そこからネットワークが広がって、そのネットワークは被災者の人たちの窓口として、そして、誰かの役に立ちたいという温かい気持ちを持った皆さんが集まる場として、札幌市内のみならず、全国の同じ思いを持った人たちがつながっていきました。そして、その広がりや、復興庁や国をも動かすつながりとなっていきました。

まさに、私たち市民活動サポートセンターのスタッフは、何とかしなければ、放っておけないという心の根っこを持った一人一人の市民の思いが重なると、大地を揺り動かすうねりになるのだということの間近で皆さんに教えていただきました。その方たちが話された言葉の中に、市民活動サポートセンターがあったからだよ、ここから始まったんだよといううれしい言葉をいただいたのです。

その反面、私たち市民活動サポートセンターの職員にとって足元を見直す言葉でもありました。そこから、市民活動サポートセンターのなすべきことは何だろう、社会にあるさまざまな問題の解決のために取り組んでいるNPOにとって、今、何が必要なだろう、運営支援のあるべき姿は何だろうという問いのもとでセンターのあり方をスタッフで再度見詰め直しました。そこから得たキーワードとして、市民活動団体の必要性を広く社会に発信していくこと、市民活動団体の組織や運営の援助をしていくこと、市民活動の理解者をふやしていくこと、そして、みんながつながる機会を大切にすることを柱として事業を進めていくことを再確認いたしました。

市民にとって、NPOにとって、本当に必要とされる市民活動サポートセンターになるために努力していきたいと思っておりますので、皆様、今後とも、お力添えをどうぞよろしくお願いいたします。そして、2年間、運営にご尽力をいただきまして、本当にどうもありがとうございました。

○事務局（山崎） ありがとうございました。

## 5. 閉 会

○事務局（山崎） 以上をもちまして、札幌市市民活動サポートセンター第6期第4回事業運営協議会を終了させていただきます。

本日は、どうもありがとうございました。

以 上